



2012年2月28日

報道関係者各位

東京都港区赤坂 4-1-31 アカネビル 5階
株式会社パシフィカ・キャピタル

パシフィカ・キャピタル、 片倉工業（株）にとって、設立以来初の株主提案

このたび、不動産投資並びに開発を手掛ける、株式会社パシフィカ・キャピタル（本社：港区）は、片倉工業株式会社に対して株主提案をいたしました。同案では、パシフィカ・キャピタルの代表取締役であるセス・サルキンを、片倉工業の社外取締役に選任する旨を提案しています。片倉工業によりますと、本年3月29日に開催予定の定時株主総会で諮られるパシフィカ・キャピタルの提案が、1949年の上場以来、初の株主提案とのことです。

片倉工業（東証一部:3001）は、絹糸工場から発展し事業分野を拡大してきましたが、現在は、不動産が資産と利益の大部分を占めています。マッコーリーキャピタル証券株式会社東京支店による2011年9月発行の調査報告書では、当時の片倉工業の時価総額が282億円にもかかわらず、保有不動産の時価は1,985億円にも上ると試算しています。つまり、時価総額の不動産時価に対する割合は13%にとどまり、この数値は国内上場企業の中で6番目に低い数字とのことです。

今回の株主提案の背景について、サルキンは次のように述べています。「これまで、片倉工業は”分散”と”融合”を主張していますが、結果的に大半の事業は、減収・損失計上しており、過去5年間で株価は大幅に下落しています。私は、逆にさいたま新都心再開発プロジェクトに経営資源を”集中”させることによって、企業価値が最大限になると確信しております。」

「昨年から、片倉工業の役員様と何度かお会いし、経営方針について意見交換をいたしました。しかし、同社の最重要課題である再開発計画の詳細は不透明であり、繰り返し発表されている開業予定の2014年は難しくなっています。そこで、他の主要株主数社と協議した結果、余儀なく、社外取締役選任の株主提案を行うという手段をとらざるを得ませんでした。」と、サルキンは述べています。これらの主要株主は、サルキンの社外取締役選任案につき、すでに同意の意向を示しています。

「私の取締役就任の目的は、これまで携わってきた豊富な商業開発実績をもとに、透明性をもって再開発を迅速に成功させ、不採算事業からの転換を図り、多くの新規雇用創出を実現させ、安定収入をもたらすことです。」とサルキンは説明しています。

サルキンは、スタンフォード大学大学院で日本経済開発専攻、修士号を取得。17年間日本でビジネスをしており、日本語も流暢で、世界的規模の不動産業界団体であるアーバンランド研究所（ULI）の日本支部である ULI ジャパンのエグゼクティブ・コミッティ・メンバーであり、また、在日米国商工会議所の建築・建設・不動産委員会の共同委員長でもあります。

「昨今、オリンパスの不祥事を機に、コーポレート・ガバナンスは広く求められています。片倉工業の代表取締役や常務は、同社のメインバンク出身であり、現在2名の社外取締役も、つながりの深い金融機関出身の人物です。そこで、私のような中立的な立場の人間が取締役に就任することが、片倉工業の発展、ひいては全株主のためになるのです。」と、サルキンは説明しています。

###

<本件に関するお問い合わせ>
株式会社パシフィカ・キャピタル
代表取締役 セス・サルキン
電話：03-5549-9033
FAX:03-5549-9031
E-Mail:info@pacific-cap.com